令和6年度　大田区立馬込第二小学校　自己評価　報告書

○　本校の概要

本校は、児童数485名（令和6年5月1日現在）、通常学級16学級、特別支援学級（若竹学級）3学級の中規模の小学校である。環状七号線の外側に少し入った閑静な住宅地の中に学校がある。保護者や地域の方々は学校に協力的であり、温かい雰囲気の中での支援に支えられて学校教育を推進することができている。今年度は、「保護者・地域と連携した教育活動」を重点として、校内研究と絡めた地域教材・地域人材の開発・活用（外部人材バンクの活用・充実）、校内組織の経営支援部内への「地域連携・未来づくりセクションの設置、コミュニティ・スクールに向けての段階的な準備、教員の地域行事への積極的な参加等を実施する。コロナ禍において大きく制限されていた地域連携について今まで以上の推進を図り、児童（保護者）・地域・学校が生き生きと過ごすことができる環境づくりを目指す。また、学習の基礎・基本の習得や個別最適な学びと協働的な学びの一体化を目指し、タブレット端末一人一台の学習環境を効果的に生かすためのICT機器の活用、スキルの習得についても継続的に推進を図る。

○　自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	方向性	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標		成果評価	学校関係者記入欄 評価	学校関係者記入欄 人数
生きる力を育成します 個別目標1 予測困難な未来社会を創造的に成し	社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。	①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。 ※新教科「おおたの未来づくり」に向けた校内研究等の授業づくり、指導計画、素地を養うカリキュラムづくり等	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	2.9	児童の自己評価において、「自分の考えを授業の中で伝えることができた」「学校行事の中で、友達と協力し、すすんで活動することができた」「授業でタブレットを上手に使うことができた」と答えた児童の割合	4：90%以上	3	A	5
		②学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを推進し、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。 ※特別活動（学校行事）の充実 限られた時間の中で、前例踏襲でなく児童の力を高める有意義な機会の創出。めあての設定、ｷｬﾘｱﾊﾟｽﾎﾟｰﾄを活用しての振り返り等	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.3		3：80%以上		B	2
		③情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。 ※タブレ ット 端末等ICT を活用した授業づくり、基礎・基本の習得（タブドリ等）、オクリンクプラス等のコンテンツの活用	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.3		2：70%以上		C	
						1：60%以上		D	
お世界たとつながる人材を育成します 個別目標2 多様な国際都市	英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心をもち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。	①外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。 ※外国語（活動）、道徳：国際理解	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.7	児童の自己評価において、「英語の学習に、楽しく有意義に取り組むことができた」「地域のことを学習する授業が好きだ」と答えた児童の割合	4：90%以上	3	A	5
		②我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。 ※地域教材・地域人材 の 開発・ 活用 地域理解と地域への愛着（校内研究含） 道徳：伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度、相互理解	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.3		3：80%以上		B	2
		③現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する力の育成を図っている。 ※道徳：自然愛護、生活科：自然・地域、 総合的な学習の時間：SDG゛s等	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		2：70%以上		C	
						1：60%以上		D	
一人ひとりが基礎となる力を育成します 個別目標3 自性と能力を発揮する	児童・生徒が豊かな人生を生きていく上で基礎となる力として、豊かな心や確かな学力、健やかな体を育成します。また、乳幼児期から中学校までの一貫性のある教育を推進します。	①道徳科を中心とした各教科等での学習などを通じて継続的に道徳教育を実施し、豊かな情操や道徳心の育成を図っている。 ※道徳学習の充実 他者理解や思いやりの心の育成 （学年・学級指導含）	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.4	児童の自己評価において、「授業の内容を理解することができた」「友達にやさしくし、相手のことも考えて接することができた」「運動をしたり、体を動かしたりすることが好きだ」と答えた児童の割合	4：90%以上	4	A	4
		②学習習熟度に応じた指導や個に応じた学習支援、各種検定の実施を通して、すべてのこどもに確かな学力の育成を図っている。 ※各教科の指導、算数少人数学習、補習等	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.3		3：80%以上		B	3
		③体育や保健体育の授業など様々な機会を通して、健康教育や食育を推進し、基本的な生活習慣の確立を図っている。 ※体育、保健学習、馬ニタイム、「早寝・早起き・朝ごはん」の取組み等	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.2		2：70%以上		C	
		④乳幼児期から中学校まで円滑な接続を行うため、保幼小の連携や小中一貫の視点に立った教育を行っている。 ※小中一貫授業公開、中学校教員出前授業、部活動体験、保育園・幼稚園との交流活動等	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.3		1：60%以上		D	
学校力・教師力を向上させます 個別目標4	校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上します。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。	①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。 ※ペア・グループ学習を取り入れた協働的な学び、タブレット端末を活用した個別最適な学び等	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.2	保護者のｱﾝｹｰﾄにおいて、「児童が進んで学習に取り組むための手立てや環境を整え、工夫・改善を図っている」と答えた保護者の割合	4：90%以上	4	A	5
		②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。 ※医教研等での学びや授業への活用、OJT実践、地域連携等	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.2		3：80%以上		B	2
		③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。 ※行事や会議の精選、個々のワークライフバランスの推進、「働きやすさ」＋「働きがい」	4：「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむね高まっている」と回答した。 1：「おおむね高まっている」と回答した教員が60%未満であった。	3		2：70%以上		C	
						1：60%以上		D	
自分らしく生きる学びを支援します 個別目標5 一人ひとりのための	困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。	①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。 ※校内委員会の継続的な実施と充実、若竹学級や異学年等との交流学習	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3	保護者のｱﾝｹｰﾄにおいて、「児童の悩みや保護者の相談に対して、適切に対応する環境を整えている」と答えた保護者の割合	4：90%以上	4	A	5
		②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。 ※いじめアンケート、WEBQUの実施・活用、いじめ認知件数等の継続的な記録含	4：「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満の教員が回答した。 2：60%以上80%未満の教員が回答した。 1：「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。	3.3		3：80%以上		B	2
		③スクールカウンセラーやスクール・ソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。 ※SCとの日々の連携、保護者の相談、SCの紹介（児童・保護者）、校内委員会の活用等	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.2		2：70%以上		C	
						1：60%以上		D	
安心で柔軟な教育環境をつくります 個別目標6 安全・安全な学習空間と創造的	学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。	①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。 ※ICT環境整備（タブレット等のICT機器をより使いやすくする学習環境整備） 地域教材・地域人材（外部人材バンク）の開拓と整備	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.3	保護者のｱﾝｹｰﾄにおいて、「学校は児童が安心・安全に学習するための安全指導や環境づくりを行っている」と答えた保護者の割合	4：90%以上	4	A	6
		③避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。 ※定期的な避難訓練や安全点検の実施 交通安全指導員や消防署、中学校との連携等	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.2		3：80%以上		B	1
						2：70%以上		C	
						1：60%以上		D	
地域をコミュニティの核としてつくります 個別目標7 学校・家庭・地域の連携・協働による	地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体でこどもたちを育成します。	①「地域コミュニティの核としての学校づくり」を目指して地域と学校が連携・協働した様々な活動を実施している。 ※地域連携：地域教材・地域人材の活用、教員のPTA・地域行事への参加	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.1	保護者のｱﾝｹｰﾄにおいて、「学校は、地域や保護者の協力を得ながら児童の教育活動に活かしている」と答えた保護者の割合	4：90%以上	4	A	6
		②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。 ※日々の安全指導、春・秋の交通安全週間による地域見守りの実施、PTA地域パトロールの実施、地域防災活動の実施	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3		3：80%以上		B	1
		③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。 ※保護者会資料による啓発、道徳、体育・健康教育授業地区公開講座講演会、セーフティ教室の実施等	4：「おおむねできた」と全教員が回答した。 3：80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2：60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1：「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。	3.1		2：70%以上		C	
						1：60%以上		D	

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A：自己評価は適切である　B：自己評価はおおむね適切である　C：自己評価は適切ではない　D：評価は不可能である　の4点について、評価した人数を記載する。